



## 携帯電話（スマートフォンを含む）等の取扱いについて

インターネット環境を含め、生徒を取り巻く生活環境が大きく変容する中、携帯電話等の過度の利用による健康被害の懸念やSNS等を介して犯罪等に巻き込まれる事件が増加しています。携帯電話は、学校における教育活動に直接必要のない物であることから、本校では、学校への持ち込みは「原則禁止」としていますが、所持している生徒も多いと思います。

つきましては、携帯電話の取扱いについて、以下の点にご留意ください。

- 1 携帯電話を子どもに持たせるかどうかについては、保護者の責任で判断してください。
  - (1) 携帯電話には、利便性ととも、危険性や問題点があります。
  - (2) 携帯電話は、学校における教育活動に必要な物であり、学校への持ち込みは、原則禁止です。
- 2 携帯電話を子どもに持たせる場合はフィルタリングを設定し、「家庭のルール」を作成したり、利用方法を指導したりして、利用状況の把握に努めてください

### <家庭でのルールの例>

- 危険なサイトにアクセスしないようフィルタリングを設定する。
- 使用するとき以外は親に預ける。
- 携帯電話の保管、充電場所は家族のいる部屋にする。
- 自分の電話番号やメールアドレスを知らない人に教えない。
- 勉強中、食事中、入浴中などは携帯電話を使用しない。
- 夜9時以降は携帯電話を使用しない。
- 休日の使用時間は、1時間以内にする。
- 歩行中やバス・自転車に乗っているとき等、携帯電話を使用しない。
- 悪口など、相手を傷つけるような使い方はしない。
- インターネット上に、自分や友達の名前、住所、画像や動画等、個人に関する情報を公開しない。
- 不安なことや心配なこと、困ったことがあれば、すぐに家族や先生に相談する。
- 1週間に1度は携帯電話の使用状況を保護者に見せる。
- 知らないサイトに書き込んだり、知らない人に会ったりしない。



※ 携帯電話を何に使うのか、親子で目的をはっきりさせたいうで、一方的な押し付けにならないよう、子どもとよく話し合いながらルールを決めましょう。

また、ルールを作成したら、印刷して、子どもも保護者も目にする場所に張るなど、いつも意識できるような工夫をしましょう。

## ～部活動の活動制限について～

新型コロナウイルスの新規感染者が減少傾向にあり、2月8日、長崎県の感染段階ステージが「ステージ4（特別警戒警報）」から「ステージ3（警戒警報）」へ移行されました。このことを踏まえ、市内の部活動は、現在以下の対応となっています。

なお、本日から「ステージ2（注意報）」へ移行されましたので、今後変更されるかもしれません。

○ 他校、他チームとの交流（練習試合等）は、南島原市内のみとする。

ただし、大会への参加は、原則として県内に限ることとし、かつ、新型コロナウイルス感染症防止の対策状況及び該当地域の感染状況に十分留意すること。

## 3月の行事予定

1	月	
2	火	
3	水	ノ一部活動
4	木	
5	金	
6	土	
7	日	
8	月	高校入試事前指導
9	火	公立高校後期入試(3年給食なし)
10	水	公立高校後期入試( " ) ノ一部活動
11	木	
12	金	
13	土	
14	日	
15	月	卒業式会場設営・予行
16	火	卒業証書授与式(給食なし) ノ一部活動
17	水	公立高校合格発表
18	木	
19	金	
20	土	春分の日
21	日	家庭の日 ノ一部活動
22	月	
23	火	大掃除
24	水	修了式・離任式(給食なし) ノ一部活動
25	木	学年末休業日
26	金	
27	土	
28	日	

※行事は変更になる可能性があります。

## ～「子ども県展」で多数入選～

<版画の部>

- |             |            |
|-------------|------------|
| ○中村 隆真（3年）  | ○藤谷 優太（3年） |
| ○岩田 環（3年）   | ○内田 玲菜（3年） |
| ○山下 沙耶乃（3年） | ○八木 凜平（2年） |
| ○伊藤 鮎美（2年）  | ○田出 悠華（2年） |
| ○渡部 凧沙（2年）  | ○末吉 由奈（2年） |
| ○田中 真優（2年）  | ○鶴川 千扇（2年） |

## <校長室の窓から>

別れと出会いの季節が近づいてきました。3月16日（火）は75名の3年生の卒業式です。また、24日（水）は教職員の離任式を予定しています。別れには涙がつきものです。涙の意味を辞書で調べたところ、①涙（るい）腺から分泌される液体 ②泣くこと ③人情、思いやりと書いてありました。

卒業式での涙は、主に「人情、思いやり」の涙でしょうが、卒業生をはじめ在校生、保護者、教職員、時には来賓までもが涙を流す場面を見ることがあります。それだけ、我々日本人は、「人情が厚く、思いやり」を持った人が多いのでしょうか。

ところで、「我が子は思いやりがない」と悩んでいる保護者はおられないでしょうか。しかし、心配することはありません。子どもは、周りのことをよく考えないで、他の人が傷つくような言葉を言ったりするものです。それは単に「思いやりがない」のではなく、「思いやりの気持ちを育てている途中」だからです。

人の心の中に「思いやりのタンク」があるとすれば、子どもはそのタンクがないわけではなく、その量が少ないのだと思います。では、どうすれば思いやりタンクの量を増やすことができるのでしょうか。私は、一番効果があるのは「大人の接し方」だと思います。思いやりをたくさん受け取った子どもは、相手をたくさん思いやれるようになるはずで。